

第43回 全労済 東京

小学生作品コンクール

テーマ

作文：ぼくの・わたしの未来
～こんなおとなになりたいな～

版画：自由課題

入賞
作品集



主催：全労済東京都本部

後援：東京都教育委員会



全労済公式キャラクター「ピットくん」も登場し、緊張もほぐれたのか喜びいっぱいの笑顔があふれた撮影となりました。
なお、東京・四谷三丁目の「CCAアートプラザ ランプ坂ギャラリー」にて、二月九日から二月十七日まで金賞・銀賞・銅賞の作品の展示会を開催し、多くの方々を受賞作品をご覧いただきました。

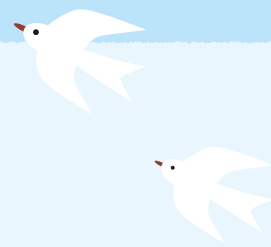
閉会后、作文・版画の部門ごとに記念撮影を行いました。全労済公式キャラクター「ピットくん」も登場し、緊張もほぐれたのか喜びいっぱいの笑顔があふれた撮影となりました。

最後に、作文の審査を担当された渡辺毅先生と版画の審査を担当された田中明美先生にそれぞれの講評をいただき、自分の思いを表現し伝えることの大切さや素晴らしいことについてお話いただきました。

続いて、作文の部入賞者を代表して、東京都のコンクールで金賞を受賞され、中央コンクール（関東を中心とした一都九県）で優秀賞を受賞された杉並区立高井戸小学校六年生の栗田知宙さんによる代表朗読が行われました。栗田さんは、大きな声でしっかりと作文を読み上げ、会場は大きな拍手に包まれました。

二月二十一日(日) 十時三十分より、全労済東京都本部・三階会議室において、第四十三回全労済東京小学生作品コンクールの表彰式が開催されました。表彰式には、作文・版画の金賞・銀賞入賞者三十名と、そのご家族やご指導された先生方、総勢約百十名の方々にご出席いただきました。

喜びと笑顔に満ちた表彰式



はじめに

小学生作品コンクールは、1973年の開催以来、今年で43回目（43年目）を迎えることができました。今回は、作文413点、版画1,320点、合計1,733点の素晴らしい作品をお寄せいただきました。このコンクールのために、一生懸命作文や版画を作り、応募くださった皆さん、本当にありがとうございました。

今回の作文のテーマは「ぼくの・わたしの未来～こんなおとなになりたいな～」でした。家族や友達、学校でのクラブ活動、将来就きたい職業、理想とする大人像など、たくさんの未来への思いが集まりました。それぞれの作品には、自分の思っていることや考えていることへの強い思いが、さまざま視点や切り口で順序立てて文章が書かれていて大変感心しました。

版画は、今年も「自由課題」でした。自分の顔、生き物や動物、風景などを上手に捉えた作品がたくさん集まりました。また、高学年を中心に自分でテーマを見つけて、景色や模様など実在しない心の世界を現した作品もありました。素材や色を上手に使ったり、さまざまな技法を用いて表現を工夫したりと、皆さんの個性豊かな発想力に深い感性を感じました。

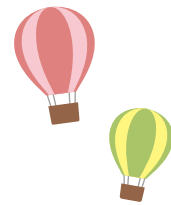
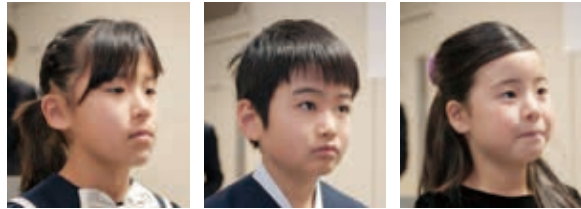
本当は皆さんからいただいた作文・版画のすべてを紹介したい気持ちでいっぱいですが、紙面の都合上、作品・版画の金賞・銀賞に輝いた33点のみを掲載しています。ご容赦ください。

最後になりますが、審査いただいた先生方をはじめ、東京都教育委員会、ご指導いただいた先生方、ご協力くださった皆さまに心より御礼申し上げます。

全労済東京都本部



表彰式の会場に
受賞作品を展示しました。



作文の部を代表して受賞作品を朗読しました。



少し緊張気味の受賞者の皆さん。



審査員の先生方に講評をして
いただきました。



表彰式の様子



受賞者の皆さん





応募作品数・学校数	68
応募いただいた学校と作品数	67
● 版画の審査を終えて	66
● 銀賞作品	60
● 金賞作品	54
● 版画の部 コンクール入賞者	52
● 作文の審査を終えて	51
● 銀賞作品	28
● 金賞作品	10
● 作文の部 コンクール入賞者	8

コンクール入賞者



- ぼくのわたしのみらい〜こんな大人になりたいな〜
こんな大人になりたいな……………光塩女子学院初等科（1年）
わたしの未来……………東京学芸大学附属小金井小学校（2年）
のうしんとうになつて……………暁星小学校（3年）
あこがれのしごと……………暁星小学校（3年）
ゆめのたねを育てよう……………光塩女子学院初等科（3年）
わたしの未来……………光塩女子学院初等科（3年）
し育員のゆめ……………国分寺市立第五小学校（3年）
十年後の未来……………国分寺市立第五小学校（4年）
ぼくの未来……………国分寺市立第五小学校（4年）
将来になりたい仕事……………国分寺市立第五小学校（4年）
わたしの将来の夢……………国分寺市立第五小学校（4年）
わたしが大人になったら……………国分寺市立第五小学校（4年）
夢にむかって……………光塩女子学院初等科（5年）
「結万」という名前に負けないように……………光塩女子学院初等科（5年）
日本人の良心を忘れない大人になりたい……………品川区立小中一貫校 伊藤学園（6年）
夢に一步近づくために……………杉並区立高井戸小学校（6年）
失敗する喜び……………杉並区立高井戸小学校（6年）
私はなる……………杉並区立高井戸小学校（6年）
私の将来へと続く道……………目黒区立烏森小学校（6年）



- わたしの未来……………東京学芸大学附属小金井小学校（1年）
大人になったら……………暁星小学校（2年）
外国人をたすける大人になりたいな……………光塩女子学院初等科（2年）
お父さんみたいな大人になりたいな……………暁星小学校（3年）
ぼくのわたしの未来〜こんなおとなになりたいな〜……………暁星小学校（3年）
やさしい心をもつ大人になりたい……………杉並区立久我山小学校（4年）
世界一すてきな人をめざして……………台東区立大正小学校（4年）
自分の将来……………品川区立小中一貫校 伊藤学園（5年）
未来の私への決意……………光塩女子学院初等科（6年）
夢にむかって……………杉並区立高井戸小学校（6年）



- しんせつな人になりたい……………光塩女子学院初等科（1年）
こんな大人になりたいな……………目黒星美学園小学校（2年）
幸せプレゼント……………光塩女子学院初等科（3年）
トップスイマーへの道……………東久留米市立第一小学校（4年）
与えられる愛から与える愛へ……………光塩女子学院初等科（5年）
自分の力で誰かを救う……………杉並区立高井戸小学校（6年）



しんせつな人になりたい

光塩女子学院初等科 (1年)

鮫島 さめしま

麻里菜 まりな さん

「しんせつな人になりたい」
 光塩女子学院初等科1年 さめしままりな
 わたしは、大きくなったら、こま、てい
 人をたすけてあげられる、しんせつな人にな
 りたいとおもいます。わたしのおかあさんみ
 たいな人になりたいです。わたしのおかあさ
 んは、スーパーマンみたいなんです。わたし
 がなきそうなきときには、
 「大じょうぶだよ。」
 と、そ、とまをのばしてくれます。おかあさ
 んの手をにぎるとあんしんします。
 ある日、おかあさんとみちもあるいていた
 ら、
 「このおみせにいきたいのですが、どうい
 たらいいのですか？」
 と、しらないおばあさんがはなしかけてきま
 した。おかあさんは、
 「ごめんなさい。そのおみせはわからなくて
 す。でも、このみちをま、すぐい、てみる
 と左がわにこうばんがあるんで、そこでき

いてみるといいですよ。」
 といっていました。おばあさんは、
 「どうもありがとうございます。よか、たて
 す。しんせつにしていただいたわ。」
 といっていました。わたしは、
 「こま、てい、てあげたらいいのじ。」
 とおかあさんにいいました。すると、おかあ
 さんが
 「じぶんで出さるところは、見まも、てあげ
 ることも大せつなんだよ。」
 といいました。わたしはび、くりしました。
 「本とうに？」
 とぎくと、おかあさんは、
 「出さるところもや、てしまっのは、おせ。
 かいなのよ。出さないところも、すこしお
 手つだい出さることがしんせつ、ていうこ
 となの。それも、じぶんが出さる中で、一
 ばんいいやりかたでや、てあげられればそ
 の人はよか、たな、おも、てくれるよ。」
 とおしえてくれました。わたしは、

「ぜんぶや、てあげることがいいことではな
 いんだな。」
 とは、見しました。
 おねえちゃんテレビを見ていたときに、
 目がふじゆうな人が、もうどうだにたすけて
 もら、て、一人で町中をあるけるようにな
 たというのをや、ていました。おねえちゃん
 に、
 「もうどうだ、てすこいね。えきや、しらな
 いところでも、いつでもきあんとしじにし
 たか、てあんぜんにかいぬしさんをつれて
 い、てあげるんだね。」
 といいました。おねえちゃん、
 「このもうどうだを育てるの、て大へんなの
 し、てる？子犬のとまにはパピーウォーカ
 ーがあいじょういっばいそだてて、その
 あと、くんれんしさんがくんれんするんだ
 よ。」
 とおしえてくれました。いろいろな人のしん
 せつがつかなが、てい、るのです。わたしは、

「もうどうだにもたく山のたすけがあるんだ
 な。」
 とおもいました。わたしも大人にな、たとき
 に、こま、てい、る人をたすけられる人になり
 たいのです。
 おかあさんはわたしに、
 「こま、てい、る人をたすけるほうほうは、一
 つではないのよ。その人その人によ、てち
 がうの。だから、まりの目のまえにいるこ
 ま、てい、る人を、どうすればたすけてあげ
 られるか、うれい気もちになるかも、い
 つもかんがえてあげられる人にな、てね。」
 とい、てくれました。わたしは
 「じやあ、一人で出さな、ときには、まわり
 の人に手つだ、てもらえるようにしたほう
 がいいね。」
 とい、ました。おかあさんは、とてもうれし
 そうに、
 「まり、すこいね！そうなんだよ。人は一人
 では、生きられないし、一人の力はとても



こんな大人になりたいな

目黒星美学園小学校 (2年)

高橋 海音さん

「こんな大人になりたいな」
 二年 高橋 海音
 わたしは、夢が広がる楽しい本が書ける、大人になりたいです。
 どうしてかというところ、わたしは本を読むことが書くことが大好きだからです。
 はじめは読むことが好きだったけれど、本を何さつも読むうちに、だんだん自分でも本を作りたと思うようになりました。
 自作の本をはじめて作りました。たのは、**年長** (五

目黒星美学園小学校 (三・四・五・六年)

さい)の時でした。タイトルは「いちごのようせい」です。ある日、いちごから生まれたようせいが女の子のところにやってきました。いっしょに成長していつまでもながよくするといってお話です。その本は友だちに読んであげたり、自分で読んでたり、毎日気に入って、ようちえんにも、てい、ていたのて、て、て、もホロボロになつてしまつたり、その本にはたくさんのおもしろい思ひ出がつまっています。わたしは今でも、その本を大切にしています。

小学一年生になつた時も本を作つていました。そのころには読んだ本がだんだんふえていたので、うちえんのことよりも、こ樂しい本を書けるようになりました。友だちと妖怪図鑑を作つたり、ちよ、とふしぎな、そのうの本を書いてみたり、いろいろなクイズの本を書いています。そのうちの三つの本を学校にも、てい、たら、友だちやたんに人の先生に、
 「こんな長く女が書けるなつてすごいです。」

目黒星美学園小学校 (三・四・五・六年)

絵もいろいろ、女もおもしろいよ。」
 「今どべつの本も作つてきてよ。」
 「たくさんはめられて、こ、てもうれしかつたです。」
 わたしは本を読んでいると、自分か本に本の主人になつて、いろいろみたいで、こ、てもウキウキとワクワクが止まらなくなつて、本の世界に入つて、たびが出来ます。
 本は楽しいだけでなく、女の書き方や、

小さいものなの。だから、まりは小さいしんせつもたく山、かさねてい、て、いざといふときに、まりをきつだつてあげよう、たすけてあげようとおも、てもらえるようにしていかないとだめなのよ。それ、気づけたまりは、本とうにすごいいし、おかせんはと、てもうれしいな。なによりのプレゼントだよ。」
 「い、てくれました。みだんおかせんにほめてもらうときよりもす、こうれしくて、なみだが出てきました。ちよ、とはずかしうておかせんに、ついでに、いろいろな人のしんせつがわたしの中にかさね、て、いくとらしいです。そして、わたしも、みんながこま、ていることをたすけてあげられるようにな、ていきます。」

選評

お母さんやお姉ちゃんなどの身近な人がしている親切を、よく考えながら観察していることが分かります。教えてくれている人の言葉を上手に引用し、そこから考えたことをまとめる書き方は、読み手を引き付けます。「いろいろな人の親切が私の中に重なる」ように学び続けられ、親切な人に成長できるのではないのでしょうか。



すてきな本を、何さつも作るこです、その
本に、たくさん人のほうせきもちりばめて、み
んなにたくさんあつめてもらって、幸せにな
ってもらいたいです。その夢をかなえるため
に、わたしはこれからは、たくさん本を読んで、
いろいろな気もちのわかる人になりたいと思
います。

本は同じ本を何回読んでも、かんじること
かせんぜんちがうので、本は何回読んでも、
いいなこわたしは思います。

わたしは、これからたくさん本を読んで
もの知りになって、いろいろなことを学んで
しよう来の夢の作家になれるようにかんば
うと思っています。

日曜星美学園作文用紙(三・四・五・六年)

新しいかん字、知らなか。たこともたくさん
学べます、わたしは本で新しくおぼえたこと
を、お父さんやお母さんに教えて、おどろか
せることが大好きです。

いつか、友だちとけんがしてしまった時に
は、ながなおりのし方を本が教えてくれまし
た。

わたしは本はいいな、と思います。

本はわたしにとって、は、まろで心のほうせ
きばこのようなものです。

このほうせきばこには夢やすてきな人にな
れるヒントがたくさんつまっています。この
ほうせきは何かあつめても、あつめるのに、
おわりはありません、あつめればあつめるほ
ど、心が広くなつていきます。それは、本を
書く力になるのかなと、わたしは思いました。

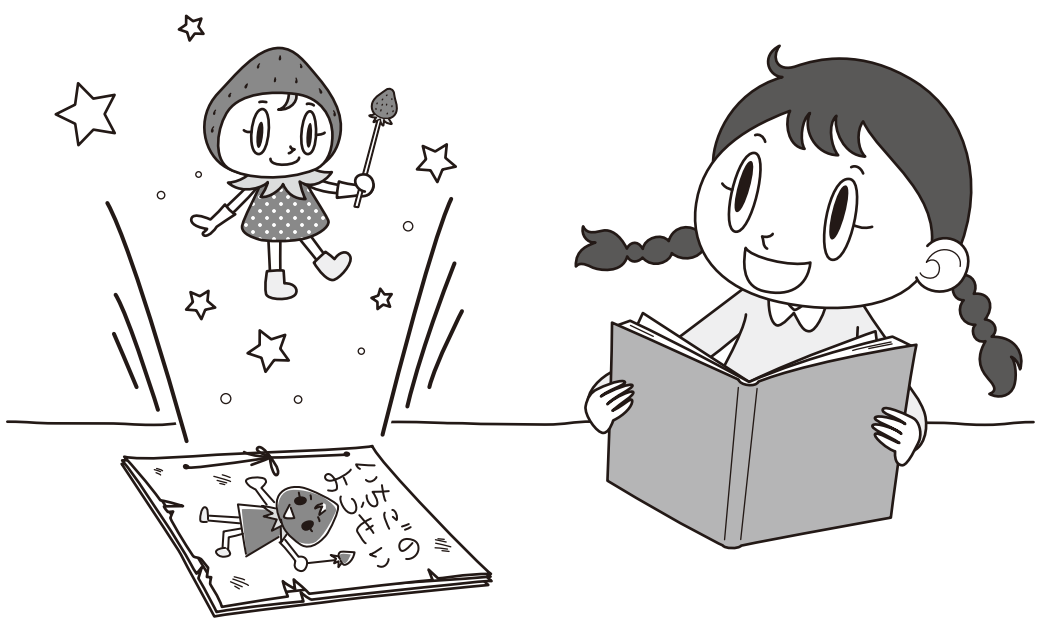
わたしは、このほうせきのたくさんつま
た本の楽しさを、一人でも多くの人に知って
もらいたいです。

わたしの夢はみんながかんどうするようにな
ります。

日曜星美学園作文用紙(三・四・五・六年)

選評 せんびやう

本が大好きな高橋さん。本を
通して学んだことや成長したエ
ピソード、本に対する温かい思
いが豊かに表現されています。
集めれば集まるほど心が広く
なっていく「宝石箱」のような
本の魅力に、改めて気付かされ
ます。いつか、高橋さんの書い
た夢が広がる楽しい本が、
書店に並ぶ日を楽しみに待つて
います。





幸せプレゼント

光塩女子学院初等科(3年)

山口 瑠花さん

幸せプレゼント
山口 瑠花

「あまごい。このキティちゃんケーキ、わたしがおとうまの声をあげたのはおとうまの誕生日のことだ。毎年、お母さんお手作リケーキを作ってくれます。六才はおとうまのジジ、七才はサカエさん一家、八才はアナと雪の女王だ。た、キティちゃんはいはいは、チゴでかいているそう。キティちゃんはいはい入ボンジにっまようじで耳をさして目とりボンはうごでかいていた。世界に一つだけのわたしのためのケーキ。クリームは雪のように白く、イチゴはほろほろのようにさうめいていて、心があたたくなるおいしさだ。た、お母さんの愛がこもっていてその気持ちがおとうまに伝わってうれしかった。だからわたしはおかし作りの名人になりた。仕事でもし、みでいい。ある時お父だすにプレゼントするために、

スノールを作った。一人では作れないからと中までお母さんに作ってもらい、さい後にわたしがおとうまのため形もバラバラだ。た、わたしはあめながら「おいしくなれ、おいしくなれ」とまほうをかけたら、オージンから出した時に少しふくらんでひびかはい、ていたので、うし、はいし、た。とお母さんにたすねた。そうしたら、おとうま「こしをわたされた。これをふてみて。」「さいや、てみると、雪がふるようにおさとうがおちていて、おとうまはみえなくな。た、それをうっピンクして、お友だちにわたしたそのしゅんかん、わたしがおとうまをこめて丸めた物をプレゼントした事かうれしくな。た。でもまだ一人では作れない。上手にきれいに作るのほおれしめた。このあいだお母さんがシェイククリームを作

てくれた。わたしはどんなかできるかなと楽しみにしていた。お母さんか「ふくらんでいるよー。」「おんてくられたので、キッチンまで見に行くとお母さんおだしあげてオーファンを見せてくれた。シェイククリームかブロー、とふくらんでいた。お母さんに「なんでふくらんでいるの。」「たまたまここむきこに火が入って水がすいれ

をのせるわけにもいれないし。」「おはいち、まはお医者さんだ。だから、おアトバイスすると、それいいね。」「おはあち、まは天気よほうを見るのかすきだから、天気マークをかくのはどう?」「おはあち、まは天気よほうを見るのかすきだから、天気マークをかくのはどう?」「おはあち、まは天気よほうを見るのかすきだから、天気マークをかくのはどう?」「おはあち、まは天気よほうを見るのかすきだから、天気マークをかくのはどう?」



トップスイマーへの道

トップスイマーへの道

三品 昊真

ぼくは、だれにも負けない世界一のトップスイマーになりたいです。目標の選手はアメリカのケイティ・レデッキー選手です。レデッキー選手は自由形の長きより選手で、四百、八百、千五百mの自由形世界記録を持っています。

レデッキー選手のような大人になりたいと思います。たきかけは今年の夏、ジュニアオリンピック

ピックの予選で五十mの自由形に出場したときです。タイムは三十三秒六二でした。初出場のジュニアオリンピックで自己ベストを一秒以上もこうしんできてとてもうれしかったです。とても自信ができました。そのとき、ぼくもレデッキー選手のように、自由形で世界と戦いたい、そう思いました。

ですが、大きく記録をこうしんすれば、次の自己ベストこうしんがむずかしくなってしまう。ジュニアオリンピックの後、スイミング

作って食べた人によろこんでほしいな。お母さんはいつもわたしとお父さんのためにケーキを作ってくれます。でもお母さんのたん生日は毎年買ったケーキになる。だからわたしはケーキを作ってお母さんをよろこばせたい。そんなおんがえしかできる大人になりたい。

選評

山口さんが作る「世界に一つだけのケーキ」、もらった人はきつと嬉しくて飛び跳ねてしまうでしょう。これまでプレゼント作りで考えてきたことを実際の経験と重ねながら説明する書きぶりから、相手を思いやれる大人になりたいという山口さんの強い思いを感じます。「幸せプレゼント」というタイトルも話の中心にぴたりと合っています。

東久留米市立第一小学校（4年）

三品

昊真さん

グクラブの記録会、市外部クラブ対こうせんと五十mの自由形には出場したのですが、ベストは出ず、なやんでいました。そんなある日録画した世界水泳を見て、レデッキー選手が金メダルで自分自身を持つ世界記録をこうしんし、水もをたたくのを見て、ぼくももう一度がんばろうと思いました。

そして、十一月のめいじ大学で行われた試合でぼくは五十mの自由形に出場しました。めいじ大学は二度目でジュニアオリンピックの次の試合でした。そのときもあまり、タイムは出ず、ベストにもとどきませんでした。そのときはとてもきんちゅうしていましたが、今回はもうきんちゅうしていませんでした。ベストを出すという自信があったからです。それに、スイミングの一番の友達、山本くんが、五十m平泳ぎで四十二秒というとても好タイムで帰ってきてくれました。それでぼくも大いに勇気づけられました。



なく、百mでもいい記録を出していきたいと思っ
 ています。

です。スタート台に上がって大きく息をすい
 ました。心の中でベストをだすぞ、と何とモ
 自分に言い聞かせました。笛が鳴り、いっせ
 いに飛びこみました。泳ぎながら、今までや
 ってきた練習のことが頭の中に入。てきます
 きつくても、つらくてもがんばった練習、コ
 ーチといっしょうけんめいなおしてきたフォ
 ーム、そして最高の親友であり、最高のライ
 バルである山本さんと競争しているときのこ
 と、すべての気持ちをここに、水泳にぶつけな
 がら全力で泳ぎました。ラスト五mは、必死
 で泳ぎました。タッチして、電こうけいじ板
 を見ると、タイムは三十三秒三三でした。そ
 のときはまだ実かんがわきませませんでした。ブ
 ールサイドにいるコーチはガッツポーズをし
 ていました。そのとき、やっとな気がつきまし
 た。ぼくは少しだけれどレデッキー選手に、
 ゆめに近づけた気がしました。
 ぼくは一月の大会に百mの自由形にも試合
 に出ることになっていきます。五十mだけでは



選評
 構成が分かりやすく、心情が
 詳しく書かれており、夢に向
 かって日々努力する姿が浮かん
 できます。特に、新記録を出し
 た大会での心境や様子が丁寧
 綴られ、読みながら、「頑張れ！」
 と応援したくなりました。憧れ
 の選手のようなトップアスリー
 トになれる日を夢見て、これか
 らも努力し続けて欲しいと思っ
 ます。



与えられる愛から 与える愛へ

光塩女子学院初等科(5年) 岩瀬 いわせ 郁夏 あやかさん

与えられる愛から与える愛へ
光塩女子学院初等科五年 岩瀬 郁夏
私はこの言葉が好きです。私は小学校に入
ってこの言葉に出会いました。小学一年生の
クリスマス会で校長先生がおっしゃった言葉
です。その頃はあまり意味が解らなくて聞き
流していました。

三年生の母の日に、私は何かしてあげたい
なと思いました。何をしてあげようかな、私
には何か出来るのかと何日か考えていました。

光塩女子学院

いつも美味しいお弁当やご飯を作ってくれ
るお母さんに、私も手作り料理でお返ししよう
と思いつきました。キッチンで何度も作り、
お母さんの料理の中で一番好きなカレーライ
スを作ることに決めました。自分では上手に
作らなかつたけれど、ジャガイモがまだ固
かたり、ルーの味が薄かたりとまだまだ
お母さんの美味しいカレーには近づけません
でした。私が少しばかりしているところを
「郁ちゃん、すごくおいしよ。また郁ちゃん

んのカレーが食べたいわ。今度は一緒に作り
ましよう。
と言って食べてくれました。私は嬉しくて今
でもその事が記憶に残っています。考えてみ
るとこの時初めて、人に何かしてもらうより
も、人のために何かをしてあげ、喜んでもら
えることの方がすごく嬉しい、と実感したよ
うな気がします。

私の学校では、もう一人の友のために、
という活動があります。四年生の時にユニセ
フの方の出前授業があり世界の子供たちの現
状を知りとても驚きました。学校へ行きたい
けれど家の手伝いをしなくてはいけない子
、毎日重い水がめを持つ、長い道を歩かなけれ
ばいけない子、せ、かく水を汲んできても水
が汚くてその水を飲んで死んでしまう子、日
本では治すことのできる病気でもワクチンや
薬がないために死んでしまう子。このよう
な小さい子供達が沢山います。実際にその水
がめを持つてみました。鉄の塊のようでも

光塩女子学院

重く持つているだけで腰が痛くなつてしま
いました。ユニセフの方は
「世界には苦しんでいる子供達が沢山いま
す。しかしこれは全て治せるものなのです。
とも言っていました。そして私は百円で何が
出来るのか教えてもらいました。百円で風邪
や病気から守るワクチンが二本買えるよう
です。毒を持つている蚊から身を守る蚊帳が
五つ買えたり、水十リットルをきれいに洗
浄できる丸菜が五十個買えるそうです。また私

光塩女子学院

は社会の授業で紹介された本を読み、とても感
動しました。その本は「地雷ではなく花をく
ださい」という本です。これは地雷が埋ま
っている地域に住んでいる子が一つの地雷を取
り除き、そこに一本の花を植えていくと地球
全体がお花畑になるという話です。でも地雷
をとる機械が高く買えずに困っているところ
がありました。地雷のせいで手や足を失った
子がいることも知りました。私は自分が如何
に恵まれた環境で過ごしているのかと、は、

としました。不自由なことがあつても自分の
周りには愛を手えてくれる人がいる、環境も
整っているのです。私達の学校では見えない
ところで苦しんでいるもう一人の友のために
カンボジアやフィリピン、アフガンスタン等
に寄付をしています。毎年クリスマス会やバ
レーでは多くの人にこの友のことを知って
もらうとポスターを使つて募金活動をしてい
ます。募金活動は少し大変ですが、欲しいも
のを我慢してためたお金が苦しんでいる友の
ために使われ、命が助かっていると思うと
とても嬉しい気持ちになります。

光塩女子学院

「与えられる愛から与える愛」の意味は色
々あると思います。募金をするのもその一つ
です。しかし私は、人の身になつて考えるこ
とが出来ないようにすることが、愛を与えるこ
とだと思っています。相手のことが考えられるか
う相手をお願いする気持ちで愛を与えること
が出来ると思うのです。人の思いは十人十
色、良いと思うことも色々です。しかし、自



自分の力で誰かを救う

杉並区立高井戸小学校（6年）

栗田 知宙さん

自分の力で誰かを救う

杉並区立高井戸小学校 栗田 知宙

私は心臓に病気をもって生まれました。その病
 気は心臓に穴があいて、そこから血が大量に
 出てしまうというものでした。しかし、私は
 今くうして作文を書いたり、外で走り回って
 遊んだり、普通の小学生と変わらない生活を
 送ることができています。それは生まれやす
 病気を発見してくれたいお医者さんのおかげだ
 と思います。

私が生まれた日、お医者さんは胸に聴診器
 をあてた。その後父と母にくう言った。

「お子さんの心臓に雑音があります。」

父と母はそう言われた時、言葉を失った。

それから毎日、母は泣いていた。しかし、お
 医者さんはそんな状態になっしまった母も
 救ってくれたのだ。それは母が一人で泣いて

いると、
 「一緒にがんばっていきましょー」と
 言った。

選評

愛を与えるとはどのような行
 いをすることなのか、どのよう
 な考え方が必要なのか、これま
 で岩瀬さんが経験してきたこと
 や、適切な比喻などを交えて具
 体的に説明しています。また、
 文章全体から岩瀬さんの優しい
 人柄が伝わってくる心温まる作
 品です。平和を創り出すのは愛
 を与えられる人たちのだと考
 えさせられました。



少し楽になる。それは先にも述べたように、お医者さんが精神面のケアをしてくれると同時に、患者に寄り添って同じ目線で辛いくとを共感したり、わかち合ったりしてくれるからだと思う。

私は大人になつてどうしてモヤリとげたいことがお医者さんのおかげで見つかった。それは「自分の力で誰かを救う」ということだ。例えば、私を救ってくれたお医者さんのように大きなことではなくても、道に迷っている人がいたらその人に優しく「どうかしましたか。私にできることであれば力になりますよ」と笑顔で言い、その人に寄り添って考えてあげる。他にも荷物が多くて困っている人を見つけたら、「大丈夫ですか。家まで運みますよ」と言い、その帰り道荷物が重いとゆうことを二人で共感し合うというちよつとしたことでさえも、人を救うことになると思ふ。私

はあのお医者さんのように大きくはなれないかもしれない。しかし、世の中には困っている人や助けを求めている人はいっぱいいると思うから、日々の生活の中で考えでできることを探していきたいと思つた。

そして大人になつた時、「自分の力で誰かを救う」とができる人間になるために、今、いくつかのことをやっておくべきだと私は思う。だから私は一生懸命、今できることを考えた。すると一つのことか頭に浮かんだ。

それは、常に相手の気持ちを考え行動するということだ。私を救ってくれたお医者さんは精神面のケアをしてたり、同じ目線で辛いくとを共感したり、わかち合ったりしてくれたり。しかし、それは簡単にできることではない。同じ目線で考えるということは、自分がその状況に立たされたことがなかったとしても、その人は今、どんな気持ちなんだろうと考える必要がある必要になつてくる。例えば、友達がおかしい時、

「その悲しさ、分かるよ」とか、
 「どうやら、大それた悲しさが無くなるか一緒に考えよう」と
 と声をかけるなど日常には相手の気持ちを考える場面が溢れている。だからこれからはそのことをしっかりと心にとめ、実行していきたいと思つた。

「自分の力で誰かを救う」というお医者さんがくれた夢を叶える日まで、いや、叶えたい。後もずつと相手の気持ちを考え行動するということを全力で取り組み、社会に貢献できるそんな大人になりたいと思つた。

選評

自分や家族を支えてくれたお医者さんとの関わりから、大切なことを学んだ栗田さん。経験から感じ取ったことが情緒豊かに表現されており、優しさと温かさを感じる素敵な文章になっています。時間の経過と心情的変化が分かりやすく書かれており、「自分の力で誰かを救いたい」という思いがしっかりと伝わってきます。

「わたしの未来」

「わたしの未来」

塩沢 香怜

わたしのおじいちゃん、びょういんに入
いんしています。どうしてかという、先月
のうけつというびょう気でたおれて、きつ
うぎゅう車でびょういんにはこぼれたからで
す。

このあいだ、びょういんにお見まいにい
てきました。おじいちゃん、なにもたべら
れず、おみそしるやスープものめないの
で、
そのかわりにてんてきを食べていました。でも、
かんごしさんが水をのませてくれたら、やっ
とすこしのむこが出来ました。

そして、おじいちゃん、わたしやもう
このことはおぼえていたけれど、わたしの名
まえが、わたしの名まえなのか、いもうこの
名まえなのか、おぼえていませんでした。な
んさいかきいても、「三十二さいかな」とい
ってしまいました。すこしはおはなしもでき
るし、
むかしのことにはよくおぼえていられるけれど、さ

東京学芸大学附属小金井小学校（1年）

塩沢

香怜さん



大人になったら

大人になったら

いのくち ゆう

ぼくが大人になったら、三つのことができ
る大人になりたい。

一つ目は、サッカーせん手になること。あ
こがれは、リオネル・メッシ。メッシは、き
年のサッカーワールドカップのアルゼンチ
ンだ。いひょうで、キヤプテンをつとめてい
る。せかいさいこのサッカーせん手の一人だ。
はやいドリブルで、あい手をぬきさるところ
を見ならいたい。

二つ目は、言い方がきつくない人になるこ
と。言い方がきついと、あい手をきずつける
つぎから、あい手が話してくれなくなる。左
たちがだんだんへって、いってしまいかもし
れない。それはさびしい。

三つ目は、子どもとたくさんあそべる大人
になること。今のぼくには、かぞくとりよ
に行ったり、いっしょにあそんだりした思
いがたくさんある。

暁星小学校（2年）

井口

勇さん

たとえば、お父さんとの一ばんの思い出は
コマ回しをしたことだ。ぼくが4さいの冬、
ほいく園で朝コマ回しをしてあそんでいたこ
とになった。けれど、その時ぼくはコマ回し
ができたかった。できる子を見て、見たい
いいなあ、か？こよく回したいなあと思っ
た。いえにかえたら、うんよくお父さんが
「コマ回しをしよう。」
と言ってくれた。お父さんは子ども
お正月に友だちとコマであそんだらしい。ま
ずお父さんは、ひもをコマにまきつけて、ほ
くにわたした。ぼくはどうしたらいいのかわ
からないので、ひもごとながけてしまった。お
父さんはわらいながら、
「こうするんだよ。」
とかまえて、サツと手をよこにふった。する
とお父さんの手からコマがビュッとして出て、
きれいに回った。
「すごい！」
と思っただ。やる気になった。

ほとたくさんあそべるお父さん、この3つが
ぼくの目ひようだ。



でもコマはひっくりかえったり、かべにぶつかったりして、せんせんできなかつた。
「コマをま、すぐよこにも、て、ま、すぐ前に上げてごらん。」
とお父さんがまた言ってくれた。やってみたら、なんとぼくのコマも十びょうぐらい回った。も、といきおいよくなげると、五十びょうぐらい回った。
「上手！上手！」
とお父さんはほめてくれた。それからお母さんをよんだ。お母さんの目の前でコマは、大せいこうした。お父さんがまた回す。つぎはぼくのばん。二人ともしんけんしようぶだ。その日のさいこうは七十三びよう。ぼくはコマにお中になった。
二年ご。ようち園でコマ回し大会があつた。ぼくのコマはじ、んちように回つて、なんとゆうしようした。
「や、たあ！ゆうしようだ。」
しんじられなかつた。お父さんとあそんだコ

マ回しが、ぼくのじしんになつた。だから、子どもとい、しよにあそんで、たくさんわらつてい、しよに楽しみたい。
さいきん、お父さんとはあそび方がかわつてきた。なぜならぼくがお父さんをぬかすところがあるからだ。水えいも、マラソンも。お父さんは、くやしいような、さびしいようなへんなかおをする。おもしろが、てもいる。お父さんを見て、しぼんだなあと思う。でも、しかたがない。五十三さいなのだから。それ
でもお父さんは新しいおもちゃをエふうして、いろいろなあそび方をしてくれる。りょ行先でも、お父さんとプールでバレーボールをしたのは、本とうに楽しかつた。
まだまだお父さんとあそびたいし、あそべるはずだ。お父さんとあそんだ思い出をもつと作つて、ぼくも大人になつたらぼくの子とちと同じようにあそぶのだ。ぼくみたいに、ワクワクさせてあげたいと思う。
メッシのサッカー、やさしい言い方、子ども



外国人をたすける 大人になりたいな

光塩女子学院初等科(2年)

松雪 まつゆき

眞弥さん ままや

外国人をたすける大人になりたいな
まつ雪 まや

わたしは、えい語をべん強して、外国人と細かいことまでくわしくお話ができるようになりたいです。

わたしの家の近くにはなり田空こうからのリムジンバスが来るホテルがあり、たくさん外国人を見かけます。また、秋にり、行で京とへ行、たときには、日本人よりも、外国人が多いところもありました。

外国人が日本をり、行するとき、切ぶの買いやふくさつな地下てつものりかえ、レストランでの食じ、お金のつかい方などとてもむずかしいと思います。

なぜそう思うのかというと、子どもにとて、ふくさつな地下てつものりかえやレストランのメニューを理かいはすることは、日本人の大人のようにかんたんなことではないので、外国人なら大人であ、ても、むずかしいとそうぞうでざるからです。外国人が日本でり、

行ずるのは子どもどうしでり、行ずるようなものなのではないかと思ひます。

わたしは、ま、年の秋、京とで金かくを見ました。キラキラしていてきれいでしたか、わろ町時だいに三たいし、うぐんの足かかよしみつがつく、たもので、じつはろくおん寺という名まえたということを知、ても、と楽しめました。り、行ぎ、くもた、たてもものやけしきを見るだけではなく、れきしや文かをよく知ることができれば、と楽しめるので

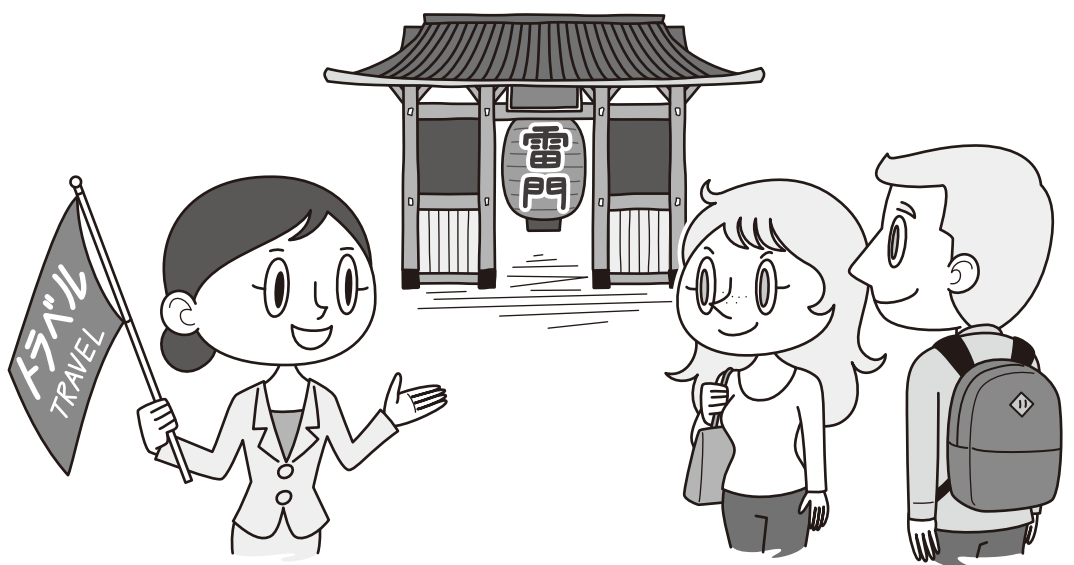
す。

だから、わたしは日本へり、行ずる外国人に、えい語であん内してあげられるようになりたいです。ただあん内するのではなく、れきしや文かを學んでくわしくせつ明したり、おり、う理や食ざいのことについてしらべてレストランをあん内したりして、り、行を楽しんでもらいたいです。

また、わたしがみにつけたえい語をしょう来の子どもたちにもその楽しさがわかるよう

に教えて、日本にも、とえい語を広めたいです。

わたしは、外国人をたすける大人になりたいという目ひ、うにむか、てえい語のべん強をつづけたいです。





お父さんみたいなの大人になりたいな

暁星小学校(3年)

大庭 怜介さん

お父さんみたいなの大人になりたいな
 三年A組十番 大庭 怜介
 ぼくは、お父さんみたいなの大人になりたいです。やさしくて、おもしろくて、そして毎日お仕事をがんばっているお父さだからです。
 お父さんのやさしいところは、たまに早く帰ってきて、いっしょに遊んでくれます。人に聞かれたら、道を教えてあげたりしていました。家では、お母さんの具合が悪かった時に、食器をすすんであらい、たりしてました。一番やさしいと思うところは、ぼくのサッカーの試合を見に来てくれたことです。あつくて、さむくても、日曜日でつかれていても、サッカーの試合の応援をしてくれました。たまに、お父さんとくせいのおにぎりを作ってくれます。とてもおいしくて、大ききもちもおいしいです。お父さんがぼくのことを、とても大切に思ってくれることがつたわ。てきます。人に、やさしさをつたえるためには、

言葉がけや、お父さんみたいに行動で表すことが大切だとぼくは思いました。
 二つ目にお父さんのすきなところは、おもしろいところですよ。たとえば、ぼくがサッカーに行く時、車の中でお歌を作ったりおどしたりしました。お父さんはおもしろい人だな。と思いました。
 また、ある日の夜、お父さんと二人で帰った時の事です。家の電気がついていなくて、だれもいないと思、ていました。お母さんと、いっしょにかいだんを上って、二かいに上がり、ぼくが電気をつけようとした時です。グルグルグルと物音がしました。下を見るとそこには、お父さんが窓の上でおねを下にして、グルグルといきおいよく回っていました。ぼくは、
 「ギャーッ」
 と、言、てしまいました。お母さんも、
 「ウギャーッ」
 と、二人でさげびました。そうやってお父さ

んはたまに、いろいろなことをしてぼくたちをおどろかせたりする。とてもおもしろいなのです。
 そして、さい後にお父さんのすげいと思うところ、毎日お仕事をがんばっているところですよ。
 お父さんの仕事は、けんきう者です。なかなか治すことのできないおもしろい病気を治すためのお薬などをけしき、うしていただきます。お父さんの仕事場にいっしょについて行く時があります。大体、お休みの日に行くので、お父さんとあと一人くらいしか来ていませんでした。休みの日にも仕事に行くなんて、カッコいいと思いました。細かい作ぎょうを何ともくりかえしたり、えい語で文章を作ったりといそがしそうでした。そんな大人な仕事なのに、お休みの日はぼくと遊んでくれたり、いっしょにサッカーをしてくれたりします。体力がすぶくあるなと思いました。

また、仕事での友だちが外国にいて、家に来たことがありません。お父さんは、友だちがたくさんいるな。と思いました。
 ぼくはお父さんを見ていて、お父さんみたいな大人になりたいと思、ています。まわりの人に親切にしたり、あい手を思いやれる人間になりたいです。こま、ている人がいたら、大丈夫ですか。
 と、自分からすすんで声をかけられるように、ぼくはなりたいです。
 また、面白い大人にもなりたいです。お父さんがおもしろいことをすると、ぼくもお母さんも笑顔になります。ぼくが学校でぶさけておもしろいことをすると、友だちが笑、てくれます。おもしろいとまわりのみんなが楽しそうだし、笑顔になるのでおもしろい大人になりたいです。
 そして、ぼくはお父さんみたいに、人の役に立つような仕事をしたいです。なにになりたいかはきめていないけれど、ぼくが仕事を



ぼくのわたしの未来 こんなおとなになりたいな

曉星小学校(3年)

小堀 裕貴さん

「ぼくのわたしの未来」
 ?こんなおとなになりたいな?し
 3-1-C 62 小堀 裕貴

未来のぼくは、自分の好きな事が自由にで
 きるような大人になりたい。
 そうなったらうれしいなと思っただけで、
 まわりの人もそれがよろこんでくれないと、
 少しつまらない。
 そんな事をしないで、くるしんでいる人が
 いない平和な世界の中で活やくしてみたい。
 たとえば、サッカーのワールドカップのせん
 手になって活やくしたい。と思っっていた。
 そして家でもそう話していた。
 そんな時、兄が宮沢賢治の詩「雨ニモマケ
 ズ」を教えてくれた。よく読んでみると、宮
 沢賢治が、そういうものにわたしはなりた
 い。という人は、強い体と強い心や精神をもち、
 いろいろなとほしがったりしないので、自分より
 他の人のために働くやさしさをもち、てがまん

強く、ふへいふまんを言わない人だった。
 この人もかっこいいなと思った。この人が
 本当にやさしくて心が強い人なんだなと思っ
 た。
 それでこういう人になつて、サッカーせん
 手にもなれたら、かっこいいなと思った。
 世界中の人が宮沢賢治のなりたいたいといっ
 た人だったら、平和で幸せだと思おう。
 どうしたらいいか。
 ぼくだったらまず、家でも学校の友だち
 やまわりの人を大事にして、やさしくして、
 仲よくできるように力をふる。ふだんの生
 活からなんでもいっしょにしようけんめいにする。
 丈夫で強い体をつくって、くるしいこともが
 まんしたり、せいたくをしない強い心や精神
 をきたえて、本当の強さを身につける。
 家だけでなく知らない人がこま
 ついたりくるしんでいたら、すすんでたす
 けたり、その人がしてほしいと思っっているこ
 とをするような働きをしたい。

がんばることによって、だれかのためになれ
 ばいいなと思います。
 大人になるまで、お父さんをよく見て、で
 きることは今からでもまねをしていこうと思
 います。お父さんにできないことが、ぼくに
 できるよになればもっ嬉しいと思います。





やさしい心をもつ 大人になりたい

やさしい心をもつ大人になりたい
 久我山小学校 四年 さくらい あおり
 私には、東京と名古屋にそれぞれおじいちゃんとおばあちゃんがあります。その中の名古屋のおばあちゃんが3年前にがんになりました。手術をして治ったのですが昨年再発しました。今度のがんは手術がむずかしく名古屋では手術が出来ないというのでお母さんが色々調べて大阪の病院を見付けました。

それから手術するまでの一年間お母さんは名古屋のおじいちゃんといっしょに月に2回ほど泊まりがけで大阪の病院にかよいました。東京のおじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、私、名古屋のおじいちゃんはお互いに生活でみんななくたくたになりましたがだれも文句を言いませんでした。おばあちゃんのためにみない、ちだんけつしてがんはりました。

みんなの協力がありおばあちゃんはいよいよ

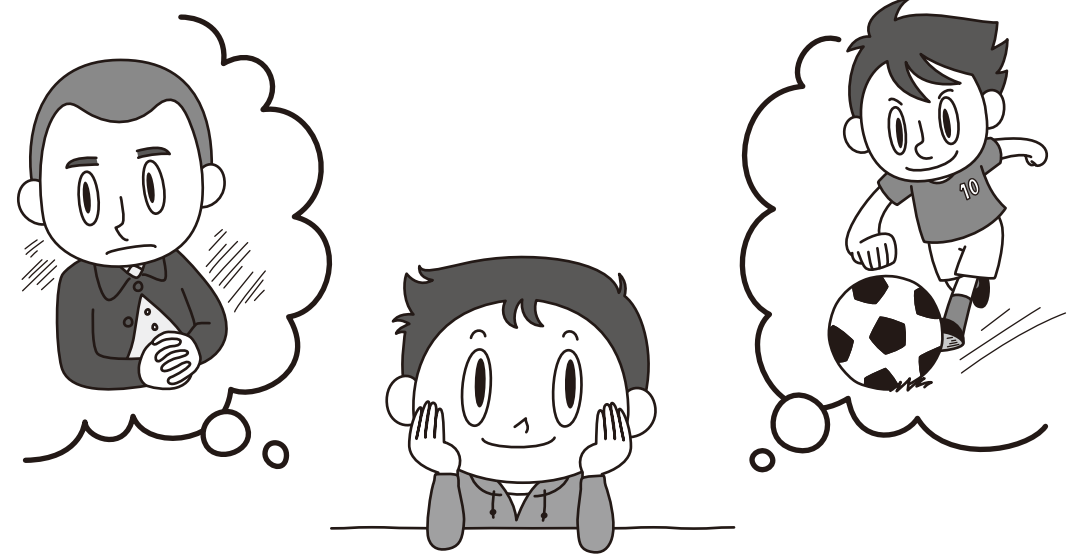
こうに行けるほど元気になりました。
 名古屋のおじいちゃんとおばあちゃん、私、お母さんとさぶの高山と下呂温泉に行きました。すごく楽しかったのですが帰ってきた後おじいちゃんのがんがもうすぐで入院してしまいました。みんなびっくりしました。

これからおばあちゃんが一人で生活しなければならぬのでおばあちゃんを見に行くほうも人かごの人や近所の病院のお医者さんがおばあちゃんを一人にたまたまさぶがどうするかどうか話し合ってくれました。

病気がながながと進むのがむずかしく体がだるいなどがあるので、毎日お心んどうをとりけることとそうじや買い物など自分で、出来ないことをやってくれるヘルパーをつけたりということを話し合ったりしてくれてとても安心しました。おばあちゃん一人のためにたくさんの人があつまって必死にこれからのことを話し合っていて私はこんな仕事もあるんだなと思いました。

そういうやさしきは自分より他の人をかろう先ずることだ。
 だれかからほめられなくてもそれができてほしい。そういうバグが、こいい。そう思っているとおりにできたらもつとこいい。そう思っている。本当のりっぱな人になって、同時にサッカーのせん手になって世界の大大会でかっやくしたい。

丈夫ナカラダヲモチ
 ガマソヅヨク イカラズ ヤサシク
 シンセツデ
 イツデモ トコデモ平和ノタメニハタラク
 ミソナニ ヨロコバレル 人ニナル
 サッカーノ 強いセンシュニナツテ
 カツヤクスル
 ソウイウ大人ニ
 ボクハナリタイ。



杉並区立久我山小学校(4年)

櫻井 さくらい

葵梨さん あおり



世界一すてきな人を めざして

世界一すてきな人をめざして

河野 ほのか

「ほのちゃん」

姉はいつも、どんなにけんかをした時も、せ
ったいに私のことを、こうよみます。ふつう
の姉妹をみると、姉は、妹のことをよびすて
にしています。友だちをみても妹のことをよ
びすてにする人しかいません。母はいつも、
その理由を、

「お姉ちゃんがあなたをほのちゃんと呼ぶの

は、大切に大好きだからなのよ。」

といつも言います。たまに、けんかをするけ
れど、私のことをいつも面どうをみてくれる
私の大切な宝もののお姉ちゃんです。

私の姉はどんな人かというところ、食べ物が大
好きで、いつも食べ物のごはかり考えてい
ます。私がかたまにおやつを分けてあげると、
本当にうれしそうです。そこがかわいいです。
姉の一番いいところは、物を大切にするとこ
ろです。私が昔、たんじょう日にあげた物も

今は小さなことしかできなけれど大人にな
たら二まってる人に文句一ついわず協力する
私の家族やおばあちゃんをささえてくれるが
いこの人たちみたいになやましい心をもつ大人
になりたいと思います。

入院中のおじいちゃんには、一人になる、おば
あちゃん、人の事々としても心配してました。
だけどもんなが協力して助けてくれると聞い
たので安心してました。
あとおじいちゃんがいなくなるといけんならハ
ビリをばげんで早くよくなるようにがんばる
と私たちにちか、てくれました。
この出来事で家族みんながそれぞれを思い
やり助けあうことがふえ、家族のきずながふ
かまりました。お母さんが名古屋に行く時は
家で東京のおじいちゃんとおばあちゃんが私
の世話をしてくれるのでめいわくをかけない
ようにしています。私が名古屋に行く時は
おばあちゃんを手助けしたり、お母さんの手
つだいをしたりしています。
これからお母さんは、もつと名古屋にいくこ
とがふえたりすると思うけどみんなて協力し
ていきたいと思えます。私は、今やれること
をせいい、ばいや、てみんなのやくにたてる
ようにしていきたいです。

台東区立大正小学校（4年）

河野 こうの ほのかさん

今でも大切に、ていてくれます。たまに、
聞いてみてくれるところをみると、うれ
しくなります。それになにより、私を母以上
に心配し、面どうをみてくれます。私が泣い
ていると、すぐ走、てきて、
「大丈夫」
と心配してくれます。学校で、休み時間など
に、ぐう然会うと、
「ほのちゃん」
と言、て、犬のようにだまっついてきます。

たまに、無たにテンションが高いなと思う時
もありですが、これが、姉らしいなと思いま
す。元気でおもしろい人です。

私が三年生の時、姉は家族と別れて、学校
行事の岩井臨海学園に行くことになりました。
私は、（お姉ちゃん）と別れちゃうのか、いや
だな。）と何日も前から思、ていました。た、
たの二日のことでした。私にと、ては、と
てもいやな長い時間になりそうでした。姉を
見送る時、私は、心細くてしょんぼりしてし



自分の将来

自分の将来

宮木 優太

ある夜、ぼくはあるテレビ番組を見た。そのテレビ番組に、ひきこまれていた。そのとき、ユメソト番組に、ぼくは小さいころから、車に関わる仕事をしていたいと思っていた。トラックの運転手、警察官の交通課など、どれも車に関わる仕事ばかりだ。それだ。それだ。それは日本高速道路株式

い。

そして、夢を実現するためには、知識と技術が必要になる。技術は今で足りないが、知識はなう出来る。渋滞が起こるメカニズムを知ったり、インフラチェンジを、覚えたりすればいい。技術は居さなくなった、免許を取って、運転の技術を見かき、交通管理隊の技術は、日本高速道路株式会社に入社してから、みかくことになるだろう。

ぼくが働きたい会社は、いくつかの子会社に分かれてる。ぼくが働きたい子会社を調べてみた。その名前を「中日ハイウェイ・パトロール株式会社」という。この子会社が管理している場所は、中央自動車道、東名自動車道、新東名自動車道、長野自動車道、八王子バイパスなどだ。ぼくはよく中央自動車道をよく使うので、お世話になっ。ている。思進しというのか働きたい理由の一つだ。それに、一番事故や渋滞が起きる。それを解決して得られるやりがい、というの働きた理由の一つだ。

まいりました。姉とはなればなれになることなんて、いままで一度もなかつた。たのて、ものすごく悲しかったのです。姉が行、てしま、てから、私は、ご飯をあまり、食べなくなりました。姉のことが気にな、て、それどころではありませんでした。母が私の好きな物を作ってくれたり、おいしいレストランにつれて行、てくれても、食べる気はしませんでした。その、姉のいない三日間を体験して私は、やっぱり、一人、子はいやだなと心から思いました。姉が岩井臨海学園から帰、てきた時、私は姉にとびつき、元気をとりもしました。そして、私が、

「楽しかった？」

と聞いたら、姉が、

「楽しかったよ。」

と笑、て、言、たのでとても安心しました。すると、姉が

「みんなにおみやげがあるよ。」

と、言、て、おみやげを出しました。私には、

大好きないる方のネックレスを買、てきてくれました。私は、それを一生、大切にしよう。とその時思いました。

私は姉と、中学生にな、ても、高校生にな、ても、と仲良くしていきたくです。今も、姉になやみや落ちついてうちあけられますが、これからも、と、なやみやうちあけられるような存在でいてほしいです。けんかをすることもあるがもしれませんが、たまには、私が姉にな、て、姉を妹にしてあげてもいいと思、ています。姉のような、明るくて、面白い世界一すてきな人になれるようにがんばりたいです。

品川区立小中一貫校 伊藤学園(5年)

宮木 優太さん



未来の私への決意

「未来の私への決意」

光塩女子学院初等科 六年 鮫島世玲菜

八年後、私は大人になる。もしかしたら六年後の私が大人と言われる時代がくるかもしれない。私にとって、大人」というのは手を伸ばせばすぐそこにあるような存在になった。私は、大人になっても努力できる。頑張り続ける人になりたいと思っっている。でも一体何を努力するのだろうか。頑張るってどうするのかわからない。という答えを私は時々見失う。でもその時にいつもヒントをくれていた人がいる。その一人が、お習字の先生、佐藤貴子先生だ。

貴子先生は見た目はとても優しいようなのに、実際はとても厳しい先生だ。小一から始めたお習字の中でおこられたことは数知れず、私は何度も泣いてしまった。それなのに、私は先生のことを大好きなのだ。先生は練習でうまく書けなくて心が折れそうな私にいつも声

をかけてくれる。

お習字で大切な事は、単に字が上手になることだけじゃないんだよ。一枚一枚気持ちを入れて集中すること。これは大変だけれども、お勉強する時など色々な時の根性につながるの。席書の大会でたった二枚に仕上げることが、将来つらいなと思うことから逃げないという強い気持ちにもつながるからね。だから、世玲菜ちゃんもどんな時にもあきらめない人になれるように、頑張り

って！

と言ってくれた。何のためにという直接的な理由ではない。はげましてくれていたことが私にとってエネルギーになっていったのだ。

学校の保健の授業で、ロケットの開発をしている人のスピーチを聞いた。その中で、「周囲の大人に『お前にはこんな難しい事絶対に無理だ』と言われていたけれど、おじいちゃんはお前はできるぞ。どんな時にも夢をあきらめたらだめだよ」と言ってく

いと思っています。

った。

そしてほくか、交通管理隊になれるかという、すべては努力したい。人生も努力したい。大きく決まる。人生という大きな道を自分で自分で決めたい。ほくの人生の目標は、何十年間をすごすことだ。

ほくは、一度きりの人生をくいが無いように生きたい。何度失敗したってくいが無いように自分の思う通りには、人生いが無いけい。でもなるだけ自分自身で決めた道。人生を歩みたい。

日本高速道路株式会社。交通管理隊になり、人々の、大切な命を守る。たけずり、人々の笑顔も守りたい。

そしてほくの夢は、ひとま一人かとも愛され、優しく、そしてなによりも、ほくを産んでくれた母、父、祖父母に、感謝の気持ちを忘れずに、最高の親孝行ができる、大人になりたい。

光塩女子学院初等科 (6年)

鮫島 さめしま

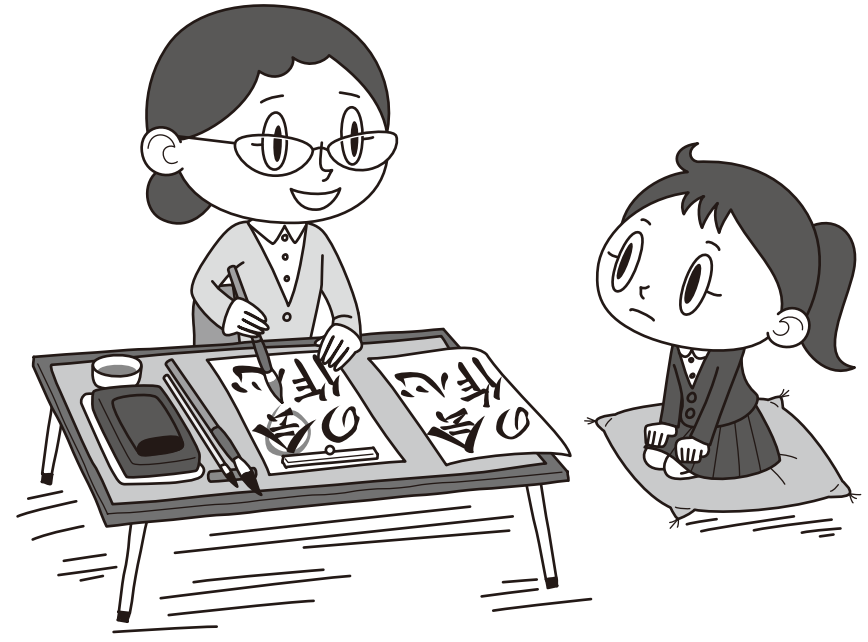
世玲菜 せれな さん



れたことが、今の自分につながっているの
です。
と開発者の方は力強く言っていた。この話を
聞いた時、私は涙があふれそうになつた。こ
の話し、貴子先生が私に言ってくれていた
言葉そのものだった。だからだ。
私の夢は将来弁護士になることだ。とても
難しいことも分かっている。夏休みに体験に
行った時、そこで教えてくれた弁護士が、
「弁護士は法律だけ知っていても、どうにも
ならないんです。意味がないんです。いら
い者にとっとうするところが幸せにつなが
るか、目の前の人を救うために使うことの
一部が法律なのであって、使い方をきちん
と知っている弁護士が、将来必要とされる
のです。」
と言っていた。これぞまさに努力し続ける
ことなのかもしれないと感じた。勉強だけ
てきても、人としてみ力がなければ意味が無
い。人から信頼されなければ、弁護士という

仕事は役に立たないということも理解した。
私のお母さんも、
「弁護士が相手にする人は幸せな人だけじゃ
ないんだよね。世の中から見れば不幸な人
も沢山いるのよ。その人の人生を背追って
その人をいかに前向きに生きられるように
助けてあげられるか。相当の覚悟がないと
出来ないお仕事なんだよ。でも、あきらめ
ない気持ちと、頑張る気持ちを持ち続けて
いけば、必ず叶うから、応えんするから頑
張ってね。」
と言ってくれた。その人の人生を背追う、つ
まり行く道を左右することは大きな責任があ
るということだ。それができる仕事を目指し
たいという私には、こんなに沢山応えんして
くれる人がいる。そのことは本當にうれし
い。頑張っているという力になるのだ。
今、世の中はほとんど複雑になっているし、
難しい問題も沢山ある。それを解決したり、
乗りこえたりする努力をし続けることが、将

来生い抜く力を持つことにつながると、私は
今、信じている。そして、それは決してつら
いことではなく、むしろとても幸せなことだ
と思っっている。でも、一人で強い意思を持ち
続けることは難しいし、正直私には出来ない
と思う。沢山の人の応えんや支えんがあるか
らこそ私は力を発揮できているのだと思う。
これから私はどんな困難にも屈せず前を向
いて歩いて行く事で夢を叶えていきたい。そ
のために頑張ること、努力し続ける事をおし
まない大人になりたい。



夢にむかって

杉並区立高井戸小学校(6年)

千葉 奏さん

夢にむかって

杉並区立 高井戸小学校
六年一組 千葉 奏

ポン、ポン、ポン。ここは図書館。今、伝記を借りられるだけ借りるので、カートに次々と伝記をいれているところだ。家に帰った。さ、そく読むのだ。

私は伝記が大好きだ。その人の人生を自分の人生に生かすことができるし、面白いからだ。今日読む一冊目は「キュリー夫人」だ。

本を開いたとたん、私はキュリー夫人の時代にタイムスリップした。

キュリー夫人は187年に生まれた。フランスの物理学者だ。夫のピエールも同じ物理学者で、二人で力を合わせてラジウムを発見し、ノーベル物理学賞を受けた。夫の死後もさらに研究を続け、ノーベル化学賞も受けた人だ。

私は読み終わって、その後、とても感動した。夫婦二人で力を合わせて研究をし、成功するこ

はなんてロマンチックなだろう。と。私も将来結婚したら、夫婦で協力して過ごしたいと思っただ。

私は内科医になりたい。そう決心したのは六年生の夏休みだ。ある日の夜おそく、奏、航平も拓人も起きて

母に突然起こされた。(もう、何? そう思っ、て起き上がる時、私は何だかいな予感を感じた。母が言った。

「今、お父さんから電話があ、ただけどね、い。

父は仕事の関係で東京に住んでいた。今、私が住んでいるのは北海道の函館市。(お父さんがどうしたんだろう。そう、不思議に思っ

た。病気で、もう手術もできない状態な人だ。だから、東京に行、てお父さんで暮らそう

。(え、私は今母が言、たことを理解するのに数秒かか、た。次の瞬間、その場にいる全員

の目から涙がこぼれた。私が思いうかべたのは、まずお父さんの笑顔。次に剣道の仲間達。学校の友達。そして函館の数々の思い出。(と、うしてこんなことになり、

朝起きると、母が一睡もできなかつたと言っていた。それから、母が父の病気について調べ私たちに教えてくれた。父の病気は胃にあ、た。とても見つかりにくいもので最初は胸が苦しくな、たりすることもあった。父もそう、で、前々からいろいろな病院に行、

ていたのに発見がおくれ、こんなことにな、てしまった。私は憎んだ。も、とはやくお医者さんが気づいてくれればこんなことにならなかつた。かたがもしれないのに、と。そして次の瞬間、私が内科医にな、てはやく病気を片つけ、て手おくれな人をなくしたいと、そう決心し

た。今は、家族みんな協力して仲よく生活している。時々クニカもするが、今の我が家は笑顔でいっぱい。父と母も、さらに仲よくな

ったよう。笑顔で話している二人を見た時、いつか伝記で読んだ、キュリー夫人とピエールに重な、てお父さん。私の心の中が、ぼ、と明るくな、た。もう一つ新しい夢ができた。それは、温かい家庭をもつこと。キュリー夫人とピエール。そしてお父さんとお母さん。そんな人達のようにになりたい。そう思、たのだ。

私は病気をはやく発見してその人にあ、た治療法を一生けん命考えて助言するドクターになりたい。そのためには、いろいろな視点で物事をみるこ、が大切だと思、う。父も西洋医学だけではなく、いろいろなものに取り組

んでいる。私も書段から立場や視点を変えていろいろなことに挑戦し、自分を自分で高め、ていきたい。学校の勉強もそう。お医者さんには看者さんとのコミュニケーションも大切だし、計算ができなければ生活できない。理科は医者にと、って一番大切な教科だと思、うし、これからの未来は私達が切り開いていく。歴

作文の審査を終えて

審査員の先生〈敬称略〉

渡辺 毅 中野区立大和小学校主任教諭（東京都小学生国語教育研究会）
 宇田川 牧子 足立区立梅島小学校教諭（東京都小学生国語教育研究会）

今年のテーマは「ぼくの・わたしの未来〜こんなおとなになりたいな〜」でした。応募された作品には様々な切り口のものがありました。将来就きたい職業、理想とする大人像、これからの人生観など…。それぞれの作品に魅力があり、楽しく読ませていただきました。

低学年の作品には、お父さんやお母さん、家族について書かれているものが多くありました。普段、自分のお世話をしてくれたり、遊んでくれたりする家族は、子どもたちにとっては、一番身近でかっこいい大人なのだ、改めて感じました。読んでいて、思わず顔がほころぶものばかりでした。

中学年の作品には、将来就きたい職業について書かれているものが多くありました。志したきっかけは、習い事、夢中になっているスポーツ、友達との関わり、学校での経験、テレビからの情報など様々。低学年よりも経験値が増え

る中、自分がどんなことに興味をもっているかが明確になってきます。大人になった自分を想像し、その職業に就くために必要なこときちんと取材して書くなど、作文の内容もより具体的になってきていることを感じました。

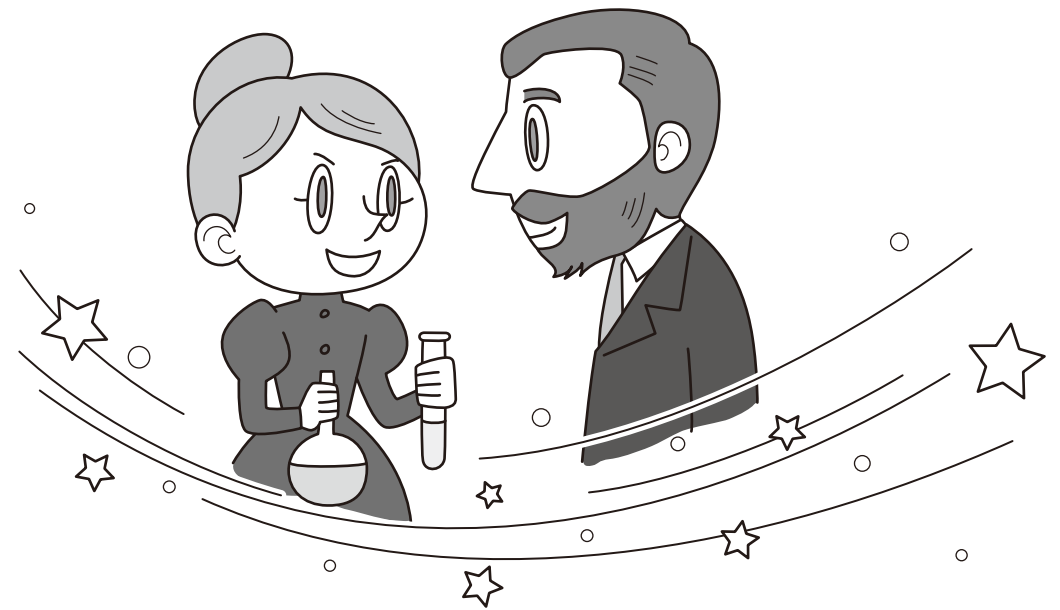
高学年は、さらに「人としての生き方」に言及しているものが多い見られました。読書量も増えてきているので、表現も巧みで、大人顔負けの文章にたくさん出会いました。これまで、人との関わりや経験したこと、さらには社会とのつながりの中で感じてきたことをもとに書かれた作文には、理想とする未来がしっかり描かれています。自分の意見が一貫して書かれている作文からは、読者として学ぶことがたくさんありました。

短い文章を気軽に発信できるメールやSNSが普及しているこの時代。大人でも長いきちんとした文章は書くことが苦手な人も

史で学んだことを生かし、同じあやまちを絶対にしないようにしなければならぬ。総合の時間では「生きる」に大切なこと、この前も視点を変えるといいということも学べた。家庭は温かい家庭をつくるのに大切な教科だ。その教科も今、精一杯がんばっている。

そして身の周りの人に優しくする。にせもの優しさではダメだ。本当に優しくするには、いいことはほめ合い、ダメなことは、きりと注意しなければいけない。これは、最近六の一で学べたことだ。大人のことはよく分からないが、夫婦も、そして家族も、ケンカしながら互いに成長しているのだと思う。

内科医になる。そして温かい家庭をもつ。私の大事な夢、絶対に叶えてみせる。



審査中の渡辺毅先生（左）、宇田川牧子先生（右）

多いと思います。しかし、このよな時代だからこそ、子供時代、自分と対話しながらじっくり考えて書く活動がより重要となっていくと思います。今回、作文コンクールに応募して下さったみなさんが、これから先の未来、今思い描いた自分に少しでも近づけるよう、心から応援しています。

コンクール入賞者



金賞

たいせつなもの…………… 絵画造形サークル (1年)
 たのしい うれしい チアダンス…………… 渋谷区立中幡小学校 (2年)
 うもつ鳥…………… 中央区立有馬小学校 (3年)
 楽しい動物森のお祭り…………… 渋谷区立中幡小学校 (4年)
 夕日…………… 八王子市立美山小学校 (5年)
 浮世絵…………… 東京都立大塚ろう学校 江東分教室 (6年)

倉本 史絵さん
 森 菜々海さん
 上川 心愛さん
 今村 日向さん
 眞下 樹乃さん
 園田 康介さん
 猪又 千裕さん
 田知行 悠佑さん
 宇津木 華江さん
 田辺 翔大さん
 渡邊 由々花さん



銀賞

ながれ星…………… 光塩女子学院初等科 (1年)
 お出かけしているうさぎの母と子ども…………… 品川区立城南小学校 (2年)
 自分の顔…………… 東京都立大塚ろう学校 永福分教室 (2年)
 きれいなよるのまち…………… 江戸川区立東小岩小学校 (3年)
 アザラシのなかよし姉妹…………… 墨田区立第三吾嬬小学校 (3年)
 ぼくのおもしろい顔…………… 葛飾区立末広小学校 (4年)
 夜の景色…………… 渋谷区立中幡小学校 (4年)
 新幹線大集合…………… 八王子市立散田小学校 (5年)
 まほうのトウシューズ…………… 福生市立福生第一小学校 (5年)
 ぼくの心の中…………… 足立区立平野小学校 (6年)
 ねこ雷神…………… 町田市立南大谷小学校 (6年)

横田 健さん
 小川 美桜さん
 馬淵 春菜さん



銅賞

あさがお…………… 東京都立大泉特別支援学校 (1年)
 じょうずなおどり…………… 足立区立洲江第一小学校 (2年)
 夜の森…………… 絵画造形サークル (2年)

おけしようにしているきょうだいたち…………… 品川区立城南小学校 (2年)
 もちつき ペったんしたよ…………… 宝仙学園小学校 (2年)
 クリスマスの深夜0時の城…………… 江戸川区立東小岩小学校 (3年)
 とり…………… 絵画造形サークル (3年)
 がんばるぞ…………… 葛飾区立末広小学校 (3年)
 カイコのしいく…………… 光塩女子学院初等科 (3年)
 夜のとり…………… 中央区立有馬小学校 (3年)
 海の帝王カジキ…………… 江戸川区立清新第一小学校 (4年)
 サファイア・オウ・ドラゴン…………… 江戸川区立清新第一小学校 (4年)
 勉強中…………… 絵画造形サークル (4年)
 境界線…………… 杉並区立松庵小学校 (4年)
 フェニックスの王…………… 多摩市立諏訪小学校 (4年)
 葉っぱの中にかくれんぼ…………… 足立区立平野小学校 (5年)
 二本足でたつゾウムシ…………… 八王子市立散田小学校 (5年)
 ハヤブサ…………… 八王子市立散田小学校 (5年)
 フルーツのもりあわせ…………… 福生市立福生第一小学校 (5年)
 不思議なローマ字…………… 福生市立福生第一小学校 (5年)
 彫り進み版画を作ろう…………… 足立区立平野小学校 (6年)
 バラと十字か…………… 足立区立平野小学校 (6年)
 和泉の星月夜…………… 千代田区立和泉小学校 (6年)
 棟方志功になろう 裏彩色版画…………… 練馬区立大泉東小学校 (6年)
 秋の夕方の花…………… 八王子市立美山小学校 (6年)

藤江 茉莉英さん
 服部 玄さん
 田代 総佑さん
 杉原 輝一さん
 堀 美樹さん
 田中 舞耶さん
 石川 陽樹さん
 赤座 遼さん
 魏 子軒さん
 福谷 奈々星さん
 箱崎 美七海さん
 浦野 郁登さん
 富士 愛音さん
 丸山 誠人さん
 山田 逢介さん
 坂田 愛美さん
 武田 菜さん
 齋藤 優月さん
 山田 有咲さん
 水戸部 寧々さん
 柿原 爽人さん
 今村 美佳さん



たのしい
うれしい
チアダンス

渋谷区立中幡小学校 (2年)

阿部 優里菜さん

選評

チアダンスで踊る姿が、記念写真のようで、その一瞬の動きを捉えています。飛び上がったときの躍動感を、体全体でチアダンスする喜びと重ねて表しており、音楽やその瞬間の声も聞こえてくる感じがします。チアダンスが大好きな心の様子も見る側にストレートに伝わってくる作品です。



たいせつなもの



絵画造形サークル (1年)

井本 栞暖さん

選評

アイスクリーム、クッキー、ハート形のお花…画面に表れている大切なもので囲まれている作者は、思わず、にっこり笑顔を見せてくれています。絵で描くようにのびのびとした線が、版の線としても表れ、画面に広がっています。表したい気持ち画面よりあふれ出していますね。



楽しい動物森のお祭り

渋谷区立中幡小学校（4年）

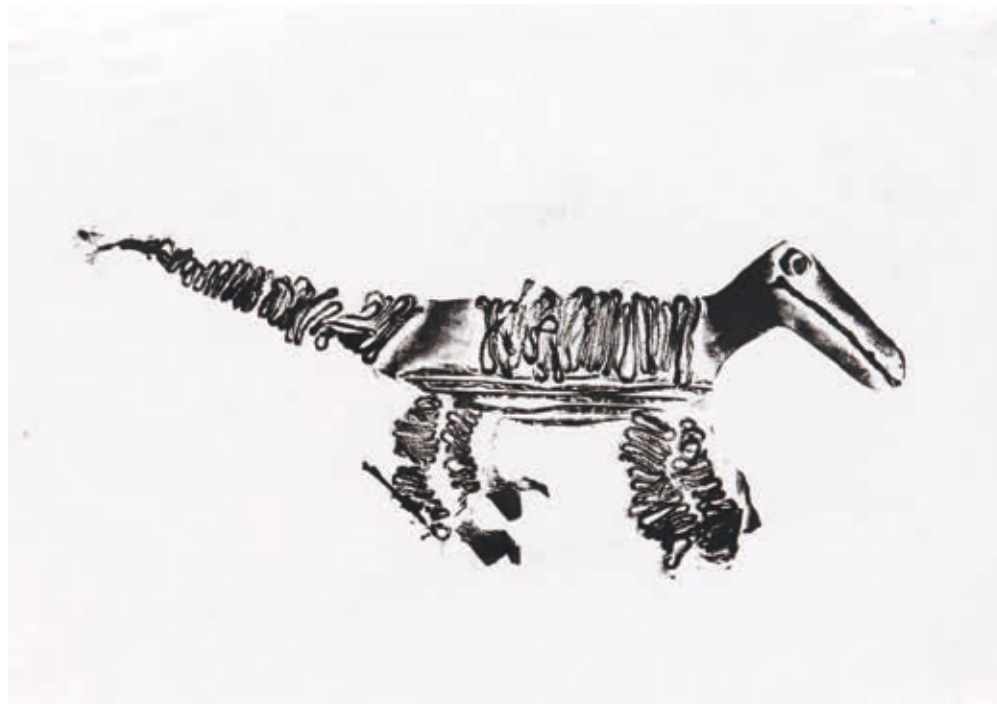
名古屋 真里奈さん

選評

この作品を見ていると、自分もお祭りに参加しているようなわくわくした気分になります。わたがし屋さんの続きには、まだまだお店が並んでいるのでしようか。森の動物たちの笑顔やおしゃべり、花火の賑やかな音が作品から伝わってくるようです。作者が楽しみなが意欲的に取り組んだ様子が目に浮かびます。



うもつ鳥



中央区立有馬小学校（3年）

小林 風矢さん

選評

まず印象的なのが、体に生えた柔らかそうな線です。やや毛羽立ちのある紐のようなものを版の材料に取り入れ、作者が触覚を働かせながらつくっていたことが伝わってきます。紐を体の形に合わせて隙間なく貼っていくのは、大変時間がかかったことと思います。小さな版でも、存在感のある作品です。



浮世絵

東京都立大塚ろう学校 江東分教室 (6年)

久野 夏輝さん

選評

浮世絵を鑑賞して、表した木版画でしょうか。浮世絵を今を生きる6年生として、感じたように表しています。手前の開いた右手と、1点を見る強い表情の目がとても印象的です。画面はシンプルですが、彫刻刀で彫った白い線が美しい作品です。



夕日



八王子市立美山小学校 (5年)

三神 薫さん

選評

八王子で見られる夕陽でしょうか。中心の夕陽の色と画面の奥の方に帰っていくカラスの飛ぶ姿がとても印象的です。それが、周りの暗い山々とも重なり、一瞬の情景を捉えています。彫り込み版画のよさを使って表した、自分が素直に感じた自然の美しさに吸い込まれる作品ですね。



お出かけしている
うさぎの母と子ども

品川区立城南小学校(2年)

森^{もり} 菜々^{なな}海^{なみ}さん



ながれ星

光塩女子学院初等科(1年)

倉本^{くらもと} 史^{ふみえ}絵^えさん



自分の顔

東京都立大塚ろう学校 永福分教室(2年)

上川^{かみかわ}

心愛^{ここあ}さん





葛飾区立末広小学校（4年）

園田 康介さん



ぼくのおもしろい顔



夜の景色



渋谷区立中幡小学校（4年）

猪又

千裕さん



きれいなよるのまち

江戸川区立東小岩小学校（3年）

今村 日向さん



アザラシの なかよし姉妹

墨田区立第三吾嬬小学校（3年）

眞下

樹乃さん





足立区立平野小学校(6年)

田辺

翔大さん



ぼくの心の中



八王子市立散田小学校(5年)

田知行

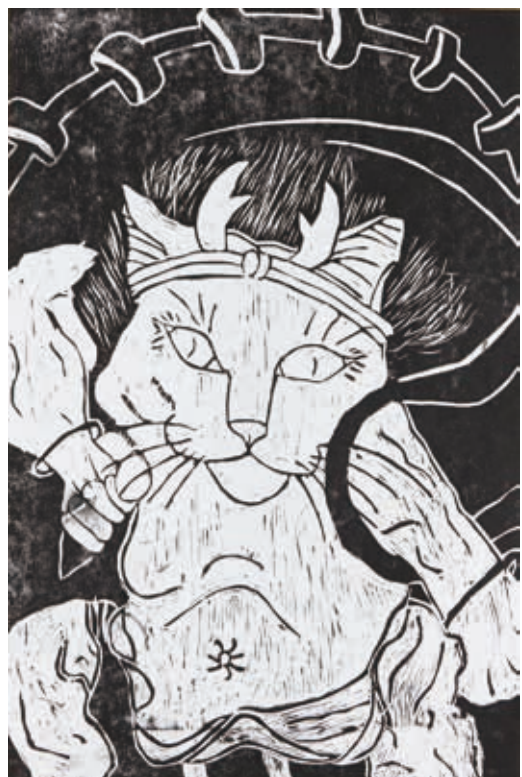
悠佑さん



新幹線大集合



ねご雷神



町田市立南大谷小学校(6年)

渡邊

由々花さん



まほうの トウシューズ



福生市立福生第一小学校(5年)

宇津木

華江さん

応募いただいた学校と作品数

学校名	作文	版画	合計
足立区立梅島第一小学校	4		4
足立区立千寿常東小学校	4		4
足立区立東洲江小学校	2		2
足立区立平野小学校		208	208
足立区立洲江第一小学校		13	13
荒川区立第二日暮里小学校		4	4
江戸川区立清新第一小学校		131	131
江戸川区立第四葛西小学校	1		1
江戸川区立西小岩小学校	1		1
江戸川区立東小岩小学校		47	47
江戸川区立本一色小学校		69	69
江戸川区立南葛西小学校		1	1
大田区立山王小学校	1	1	2
絵画造形サークル		26	26
葛飾区立末広小学校		85	85
葛飾区立宝木塚小学校	2		2
北区立浮間小学校	2		2
暁星小学校	11		11
光塩女子学院初等科	24	6	30
江東区立第二辰巳小学校	3		3
国分寺市立第五小学校	142		142
小平市立上宿小学校	1		1
品川区立小山台小学校	1		1
品川区立小中一貫校 伊藤学園	17		17
品川区立城南小学校		169	169
渋谷区立神南小学校	1		1
渋谷区立中幡小学校		96	96
新宿区立市谷小学校	1		1
杉並区立久我山小学校	2		2
杉並区立松庵小学校		12	12
杉並区立高井戸小学校	30		30
杉並区立方南小学校		28	28
墨田区立第三吾嬬小学校		25	25

学校名	作文	版画	合計
世田谷区立池尻小学校	1		1
台東区立金亀小学校	2		2
台東区立蔵前小学校		21	21
台東区立大正小学校	3		3
台東区立谷中小学校	6		6
多摩市立諏訪小学校		1	1
中央区立有馬小学校		79	79
中央区立月島第一小学校	3		3
千代田区立和泉小学校		2	2
東京学芸大学附属大泉小学校	1		1
東京学芸大学附属小金井小学校	5	2	7
東京都立大泉特別支援学校		8	8
東京都立大塚ろう学校 永福分教室		3	3
東京都立大塚ろう学校 江東分教室		2	2
東京都立小平特別支援学校武蔵分教室	2		2
東京都立墨田特別支援学校		12	12
中野区立江原小学校		63	63
練馬区立大泉東小学校		27	27
練馬区立石神井西小学校	2		2
八王子市立散田小学校		96	96
八王子市立美山小学校		5	5
東久留米市立第一小学校	73	22	95
日野市立日野第四小学校	30		30
日野市立日野第六小学校	1		1
府中市立南町小学校	2		2
福生市立福生第一小学校		32	32
宝仙学園小学校		1	1
町田市立南大谷小学校		20	20
港区立赤羽小学校	1		1
明星小学校	7		7
目黒区立烏森小学校	5		5
目黒星美学園小学校	20	2	22
総合計	413	1,320	1,733

(50音順)

版画の審査を終えて

審査員の先生〈敬称略〉 田中明美 品川区立立会小学校主任教諭（東京都版画工作研究会参与）
石田有希 江戸川区立下小岩第二小学校主任教諭（東京都版画工作研究会）

作品一枚一枚を通して、作者の姿に思いを馳せる時間は大変貴重なものでした。私たち図工専科教員は普段、子どもが表現している過程と、その過程を経て出来上がった作品とを併せて子どものよさを見つめています。作品の完成に至るまでの過程にも子どもたちの学びが在るからです。コンクール審査会場には、作品のつくり手である子どもたちは居ませんが、丁寧に貼り合わされた紙版からその子の指先を、彫刻刀で彫られた線からその子の息づかいを、刷り重なった色の美しさからその子の驚きや喜びを…作品を通して子どもたちの活動の過程に思いを巡らせ、審査をさせていただきました。低学年は、紙版画を中心とした楽しい作品ばかりでした。はさみやカッターで丁寧に紙を切り取り、大切に糊づけしていく真剣さが伝わってきました。指導者と共に刷り上がりを喜んだことと思

います。低学年で味わった版に表す楽しさは、それ以降の版表現にも生き続けるものだと感じさせられました。中学年は、毛糸や麻など紙以外の材質感も取り入れた作品が見られました。版づくりで感じていた材質感が、刷り上がると別の魅力を伴って立ち現れる驚きが体験できたのではないのでしょうか。中学年は木版画にも取り組みます。彫刻刀を扱う緊張感と、板を彫るさくさくとした心地よさを体感することは、バーチャルな情報に溢れる現代において、子どもたちに大切な経験です。高学年は、これまで経験してきた表現技法を組み合わせた見通しをもって計画的に版を重ねたりしながら、時間をかけてつくり上げた力作がたくさんありました。獲得した技法を単発的なものとして活用し、よりよい表現に向かって前進する姿が感じられました。



審査中の石田有希先生（左）、田中明美先生（右）

系統的に版画の指導を行うことは、経験をともに能動的に取り組む姿勢を子どもたちに培うものだと、高学年の作品に教えられました。最後に、作品を応募した子どもたちと、版画を通して子どもたちの豊かさを引き出してくださいました指導者の皆様、関係各位の方々に心より感謝申し上げます。



この安心を、
家族の成長とともに。

こくみん共済は、満0歳からシニアの方まで、各世代に必要な保障タイプが多彩にそろっています。

医療保障・遺族保障・けがと賠償の保障・お子さまの総合保障・シニアの保障など、

さまざまなリスクに対応する、心強いラインアップは

手頃な掛金で、大切なご家族一人一人の暮らしの安心を守ります。



こくみん共済

個人定期生命共済・こども定期生命共済・熟年定期生命共済・傷害共済・個人賠償責任共済・終身生命共済・個人長期生命共済

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

保障のことなら
全労済
全国労働者共済生活協同組合連合会

応募作品数・学校数

作文の部

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
応募作品数	27	27	90	168	36	65	413
応募学校数	7	14	12	13	12	12	35

版画の部

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
応募作品数	6	168	191	541	300	114	1,320
応募学校数	4	10	10	18	8	9	35

応募作品数合計……………**1,733点**

応募学校数合計……………**65校**

※作文の部、版画の部の両方にご応募いただいた学校があるため、各部の応募学校数の合計とは異なります。

全労済東京都本部

全労済

全国労働者共済生活協同組合連合会

東京都本部

(東京労働者共済生活協同組合)

〒 160-0023 新宿区西新宿7-20-8

ホームページ : <http://www.zenrosai.coop/contact/zenkoku/tokyo>

TEL : 03-3360-6055